

////////////////////////////////////

藤井聡・クライテリオン編集長日記 ～日常風景から語る政治・経済・社会・文化論～

<https://foomii.com/00178>

////////////////////////////////////

とあるメディアからの依頼で、岸田総理が主張している少子化対策について執筆をということで、以前、本メルマガでご紹介した、「岸田内閣には、そんな絶対無理ですよ」というおはなしをベースに記事をまとめ直しました。まとめ直すにあたって、「岸田さんっていうのは、どういうタイプの政治家なのか」という政治学的分析を改めて加筆しました。それを考えると、「ああ.....やっぱこの人下では少子化は何かがあっても絶対止まんないなあ.....」という事が改めてより明確に見えてきます。

ついてはまとめ直した記事、改めて以下にご紹介差し上げます。

.....

岸田総理は「異次元の少子化対策を行う」と総理大臣の立場で主張している。しかし、こういう岸田氏の主張に対して、決して少なくはない国民が「岸田さんは、どうせ、ここ最近、支持率が低いものだから、支持率上げる為に何か国民が喜びそうなことって何かと考えると、だったら、少子化対策をやると言えば国民に受けるのではないか？」と漠と感じているのではないかと思う。

実際、筆者もそのように感ずる国民の一人だ。そして、これまでの岸田氏の振る舞いや岸田内閣から漏れ聞こえてくる話を総合することを通してそうした見立てが論理必然的に正しいと考えざるを得ないと考えている。

例えば政治学者の中島岳志氏が与党内の各主要政治家達を政治学分析した仕事の中で、「岸田文雄氏程にどういう政治信条を持っているのかを想定することが困難な政治家はいない、なぜなら、発言内容がその場その場で完全の異なるからである、岸田氏にブレないものがあるとすればそれはブレることだけだろう」という主旨を断じている。

事実、総裁選、総選挙の公約であった国民所得倍増も新自由主義からの決別も分配重視も、選挙が終われば二度と口にされなくなってしまっているものばかりである。これは無論、中島氏の分析の正当性を強烈に支持しているのだ。

ただし、そういう政治信条が不在の人物は必然的に、その人物に影響を与える「勢力」が一貫して主張していることだけについては、一貫して口にするようになる。それは、いわば「ドラえもん」の「スネ夫」自身には何の政治信条がなかったとしても、「ジャイアン」の命令にだけは一貫して付き従うことになるという話と全く同じだ。

その点で考えてもまた、岸田氏が実際に効果を発揮する事ができる、適切な「異次元の少子化対策」など絶対に出来ないであろうことが見えてくる。なぜなら岸田氏は、彼の政策に決定的な支配的影響を与え続けている「財務省」が、後生大切にしている「PB黒字化目標」や「国債は60年償還」等の、国債を発行することを徹底的に抑止・禁止する財政規律を、本人の口は言うに及ばず、その行政を所管する財務大臣の口からも通して、繰り返し発言し続けているからである。

こうした国債発行を抑止・禁止する財政規律を遵守していれば必然的に、少子化対策の拡充のためには「増税」が必須だということになる。逆に、増税に反対するならば、少子化対策など中止だ、という事になる。したがって、少なくとも岸田内閣が続く限り、増税に基づいて少子化対策をするか、あるいは少子化対策について何もしないかの「二つに一つ」しかないという事になる。

しかし、増税すれば経済が停滞する以上、ますます少子化が加速することは必至だ。そもそも今の少子化の最大の原因は、経済の低迷による、若年層における貧困者の拡大が原因だ。貧困化すれば男女交際ができる確率が激減し、そうなると結婚もできず、必然的に子供がつかなくなっていくからだ。増税して付け焼き刃な少子化対策をどれだけやっても、結婚する若者が減れば、少子化は改善するどころか悪化することは避けられない。

つまり岸田内閣が続く限り、増税して少子化加速するか、何もしなくて少子化加速するかの二つに一つとなるのであり、したがって、どう転んでも少子化は加速することになる。